

資料目次

- 【別添資料 3-1】 未来投資戦略 2017 -Society 5.0 の実現に向けた改革- (抜粋)
- 【別添資料 3-2】 未来投資戦略 2018 -「Society 5.0」「データ駆動型社会」への変革- (抜粋)
- 【別添資料 6-1】 40 名以下の講義にした科目の担当教員名簿
- 【別添資料 7-1】 巡回指導計画表 (理学療法学専攻)
- 【別添資料 7-2】 巡回指導計画表 (作業療法学専攻)
- 【別添資料 7-3】 巡回指導計画表 (言語聴覚学専攻)
- 【別添資料 9-1】 教育課程連携協議会構成員の役割

未来投資戦略 2017

—Society 5.0 の実現に向けた改革—

平成 29 年 6 月 9 日

【43 頁～44 頁を抜粋】

i) 技術革新を活用し、健康管理と病気・介護予防、自立支援に軸足を置いた、新しい健康・医療・介護システムの構築

④ 自立支援・重度化防止に向けた科学的介護の実現

- ・次期介護報酬改定において、効果のある自立支援について評価を行う。
- ・どのような状態に対してどのような支援をすれば自立につながるか明らかにし、自立支援等の効果が科学的に裏付けられた介護を実現するため、必要なデータを収集・分析するためのデータベースを構築する。本年度中にケアの分類法等のデータ収集様式を作成し、来年度中にデータベースの構築を開始し、2019 年度に試行運用を行い、2020 年度の本格運用開始を目指す。
- ・データ分析による科学的な効果が裏付けられた介護サービスについては、2021 年度以降の介護報酬改定で評価するとともに、そうしたサービスが受けられる事業所を厚生労働省のウェブサイト等で公表し、国民に対する「見える化」を進める。

⑤ ロボット・センサー等の技術を活用した介護の質・生産性の向上

- ・介護現場でのロボット・センサー等の活用について、効果実証を着実に進め、その結果を踏まえて、利用者の生活の質の維持・向上と介護者の負担軽減に資するものについて、次期介護報酬改定の際に、介護報酬や人員・設備基準の見直し等の制度上の対応を行う。
- ・今後の介護ロボット等開発では、自立支援等による利用者の生活の質の維持・向上と、介護者の負担軽減の両方を実現するため、現場のニーズを真に汲み取って開発シーズとつなげられるよう、プロジェクトを牽引するプロジェクトコーディネーターを新たに育成・配置する。また、ロボット介護機器の開発重点分野について再検証を行い、本年夏までに戦略的な開発の方向性を取りまとめ、来年度以降の新たな開発支援対象に反映させる。加えて、生活支援ロボットの安全性に関する規格である ISO13482 と海外制度との連携を進めるための評価・試験データ取得等を支援し、ロボット介護機器のスムーズな海外市場展開を図る。
- ・介護職員の負担軽減のため、行政が求める帳票等の文書量の半減に向けて取り組むとともに、介護記録の ICT 化について普及を促す取組を強化する。加えて、これま

での処遇改善の着実な実施や、返済免除付きの貸付制度の活用等の多様な介護人材の確保策等に総合的に取り組む。また、AI を活用したケアプランの作成支援についても、実用化 に向けた課題の整理などの取組を支援する。

(出典：未来投資戦略 2017 ―Society 5.0 の実現に向けた改革― 平成 29 年 6 月 9 日 閣議決定)

https://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/pdf/miraitousi2017_t.pdf

未来投資戦略 2018

— 「Society 5.0」「データ駆動型社会」への変革—

平成 30 年 6 月 15 日

【31 頁～32 頁を抜粋】

iii) 効率的・効果的で質の高い医療・介護の提供、地域包括ケアに関わ る多職種の連携推進

① 自立支援・重度化防止に向けた科学的介護データベースの実装

- ・自立支援等の効果が科学的に裏付けられた介護を実現するため、高齢者の状態、ケアの内容などのデータを収集・分析するデータベースの運用を平成 32 年度に本格的に開始する。これにより、効果が裏付けられた介護サービスについては、次期以降の介護報酬改定で評価する。
- ・同時に、取得データを活用し、介護事業所のケアの質の向上や介護従事者の働き方改革へとつなげていく方策を検討する。
- ・また、センサー等で取得できるものも含め、更なるデータ収集・分析については、介護事業所等の負担も考慮し、技術革新等の状況を踏まえ総合的に検討する。

② ロボット・センサー、AI 技術等の開発・導入

- ・ロボット・センサー、AI などの技術革新の評価に必要なデータの種類や取得方法など、効果検証に関するルールを整理することで、事業者による継続的な効果検証とイノベーションの循環を促す環境を整備し、得られたエビデンスを次期以降の介護報酬改定等での評価につなげる。
- ・AI などの技術革新を進めるとともに、昨年度改訂した重点分野に基づき、ロボット・センサーについて、利用者を含め介護現場と開発者等をつなげる取組、現場ニーズを捉えた開発支援及び介護現場への導入・活用支援を進める。あわせて、障害福祉分野についても同様の取組を進める。また、我が国の介護ロボットの海外展開を後押しするため、安全性担保に関する国際標準化の推進や諸外国の制度との連携を図る。

(出典：未来投資戦略 2018 — 「Society 5.0」「データ駆動型社会」への変革—

平成 30 年 6 月 15 日 閣議決定)

https://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/pdf/miraitousi2018_zentai.pdf

40名以下の講義にした科目の担当教員名簿

専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	保有 学位等	担当授業科目の名称	配 年 次	担 単 位 数	年 開 講 数
兼任	講師	オオサコ ヨウジ 大迫 洋治 <平成31年4月>	博士 (獣医学)	生理学Ⅰ(動物性機能)	1前	1	1
兼任	講師	オクタニ フミノ 奥谷 文乃 <平成31年4月>	博士 (医学)	生理学Ⅰ(動物性機能)	1前	1	1
兼任	講師	オオツカ トモコ 大塚 智子 <平成31年9月>	博士 (獣医学)	生理学Ⅱ(植物性機能)	1後	1	1
兼任	講師	タナカ ケンジロウ 田中 健二郎 <平成31年9月>	博士 (医学)	生理学Ⅱ(植物性機能)	1後	1	1
兼任	講師	カバ ヒデト 梶 秀人 <平成31年4月>	保健学博士 医学博士 農学博士	生理学Ⅰ(動物性機能) 生理学Ⅱ(植物性機能)	1前 1後	1 1	2 2
兼任	講師	イシモト アツオ 石元 篤雄 <平成32年9月>	医学士	内科学	2後	2	1
兼任	講師	オノ アユム 小野 歩 <平成32年9月>	医学博士	内科学	2後	2	1
兼任	講師	タナカ ハジメ 田中 肇 <平成32年9月>	医学博士	内科学	2後	2	1
兼任	講師	タケナカ ナナ 竹中 奈奈 <平成32年9月>	学士 (医学)	内科学	2後	2	1
兼任	講師	タナベ ヒロヒサ 田邊 裕久 <平成32年9月>	医学士	臨床神経学	2後	2	1
兼任	講師	クラタ ヒロミツ 倉田 浩充 <平成32年4月>	医学博士	臨床神経学	2前・ 後	2	3
兼任	講師	タケチ トモキ 武市 知己 <平成32年9月>	医学博士	小児科学	2後	1	1
兼任	講師	クラシゲ ミチ 倉繁 迪 <平成32年9月>	医学博士	小児科学	2後	1	1
兼任	講師	オグラ ヒデオ 小倉 英郎 <平成32年9月>	医学博士	小児科学	2後	1	1
兼任	講師	コタニ ハルコ 小谷 治子 <平成32年9月>	医学士	小児科学	2後	1	1
兼任	講師	ミヤモト ヒロシ 宮本 寛 <平成32年4月>	医学士	リハビリテーション医学	2前・ 後	1	4

注) 赤字は変更部分

臨床実習Ⅱ 巡回指導計画表 (作業療法学専攻)

担当教員	学生数	期間 週 曜日	3週間																		
			第1週					第2週					第3週								
			月	火	水	木	金	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
足立 一 (准教授・専)	4名	巡回期間 施設所在地								↔						↔					
平松真奈美 (講師・専)	4名	巡回期間 施設所在地			↔											↔					
大塚 貴英 (講師・専)	4名	巡回期間 施設所在地								↔						↔					
篠田かおり (講師・専)	4名	巡回期間 施設所在地														↔					
石元美知子 (助教・専)	2名	巡回期間 施設所在地								↔						↔					
有光 一樹 (助教・専)	4名	巡回期間 施設所在地														↔					
西野 愛 (助教・実専)	7名	巡回期間 施設所在地								↔						↔					
辻 美和 (准教授・実(研))	4名	巡回期間 施設所在地														↔					
笹村 聡 (助教・実(研))	7名	巡回期間 施設所在地								↔						↔					

※ 高知県内は、1日につき1施設、県外は片道及び施設間の移動の所要時間を考慮し、1泊2日又は2泊3日を基本として、担当科目の授業に支障のないように計画する。

※ 各専任教員の担当学生数は、4～6名とし、授業担当科目の少ない実務家教員を中心として計画する。

※ 都道府県名の後ろの数字は訪問する施設数を示す。

臨床実習Ⅱ 巡回指導計画表（言語聴覚学専攻）

担当教員	学生数	期間 週 曜日	3週間																		
			第1週					第2週					第3週								
			月	火	水	木	金	日	月	火	水	木	金	日	月	火	水	木	金	土	日
武内和弘 (教授・専)	4名	巡回期間																			
		施設所在地								高知1	高知1	高知1									
石川裕治 (准教・専)	4名	巡回期間																			
		施設所在地								高知2											
稲田 勤 (准教・専)	4名	巡回期間																			
		施設所在地										高知1	高知1	高知1							
光内梨佐 (講師・専)	8名	巡回期間																			
		施設所在地										高知2	高知2								
櫻木理恵 (助教・実専)	10名	巡回期間																			
		施設所在地												徳島2	高知2	愛媛1					
吉村佐知子 (講師・実(研))	10名	巡回期間																			
		施設所在地														香川3	高知1	高知1			

- ※ 高知県内は、1日につき1～2施設、県外は片道及び施設間の移動の所要時間を考慮し、1泊2日又は2泊3日を基本として、担当科目の授業に支障のないように計画する。
- ※ 各専任教員の担当学生数は、4～10名とし、授業担当科目の少ない実務教員を中心として計画する。
- ※ 都道府県名の後ろの数字は訪問する施設数を示す。

臨床実習Ⅲ 巡回指導計画表（言語聴覚学専攻）

担当教員	学生数	1期 8週間																				
		第1週		第2週		第3週		第4週		第5週		第6週		第7週		第8週						
		月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
武内和弘 (教授・専)	4名																					
石川裕治 (准教・専)	4名																					
稲田 勤 (准教・専)	4名																					
光内誠佐 (講師・専)	8名																					
櫻木理恵 (助教・実専)	10名																					
吉村佐知子 (講師・実(研))	10名																					

※ 高知県内は、1日につき1～2施設、県外は片道及び施設間の移動の所要時間を考慮し、1泊2日又は2泊3日を基本として、担当科目の授業に支障のないように計画する。

※ 各専任教員の担当学生数は、4～10名とし、授業担当科目の少ない実務家教員を中心として計画する。

※ 都道府県名の後ろの数字は訪問する施設数を示す。

教育課程連携協議会構成員の役割

高知リハビリテーション専門職大学

番号	構成員区分	関係する専攻等	氏名	年齢	現所属及び役職名	当該専門職大学等の課程に係る職業に関する主な経歴	期待する知見・役割
1	教職員	作業療法学専攻	辻 博明	71	岡山県立大学 情報工学部 名誉教授		他大学において教授として教育研究に携わるのみならず教育内容や方法の開発等の経験・実績がある。本学の教授並びに教務委員会を統括する委員長を務める予定。教務委員会は、教育課程など教務に係る重要な事項について審議決定を行っている。その者が教育課程連携協議会の委員長を務めることにより、主体的に産業界等の意見等を把握・分析するとともに、教育課程連携協議会と大学側が密接な連携がとれる架橋的な役割や教育課程の編成作業等の牽引・統括していく役割を期待する。
2	教職員	理学療法学専攻	稲岡 忠勝	48	高知リハビリテーション学院 理学療法学科 講師		理学療法学専攻長として専攻を統括し、専攻組織としての一体性を保つとともに教職員の協力を得ながら学生に対する総合的教育指導の役割も担う。教育課程連携協議会で議論された教育課程の開発・編成・見直しに対する計画・実施・評価・改善などについて主導的な役割を行う。専攻特有の問題を把握し、必要に応じて各会議や委員会等を通じて学科長、学部長、学長や教育課程連携協議会に報告する役割を担う。
3	教職員	作業療法学専攻	大塚 貴英	51	高知リハビリテーション学院 作業療法学科 講師		作業療法学専攻長として専攻を統括し、専攻組織としての一体性を保つとともに教職員の協力を得ながら学生に対する総合的教育指導の役割も担う。教育課程連携協議会で議論された教育課程の開発・編成・見直しに対する計画・実施・評価・改善などについて主導的な役割を行う。専攻特有の問題を把握し、必要に応じて各会議や委員会等を通じて学科長、学部長、学長や教育課程連携協議会に報告する役割を担う。
4	教職員	言語聴覚学専攻	石川 裕治	57	高知リハビリテーション学院 言語療法学科 学科長		言語聴覚学専攻長として専攻を統括し、専攻組織としての一体性を保つとともに教職員の協力を得ながら学生に対する総合的教育指導の役割も担う。教育課程連携協議会で議論された教育課程の開発・編成・見直しに対する計画・実施・評価・改善などについて主導的な役割を行う。専攻特有の問題を把握し、必要に応じて各会議や委員会等を通じて学科長、学部長、学長や教育課程連携協議会に報告する役割を担う。
5	職業	理学療法学専攻	和田 謙	51	公益社団法人 高知県理学療法士協会 理事	平成21年 4月 (医) 五月会 須崎くろしお病院 入職 平成26年 4月 同 リハビリテーション部 部長 (現在に至る) 平成20年 6月 (社) 高知県理学療法士会福祉部 部長 平成27年 6月 (公社) 高知県理学療法士協会 理事 (現在に至る) 平成26年 4月 高知県高幡圏域の障害者が地域で暮らすためのネットワーク会議委員 (現在に至る) 平成27年 7月 高知県リハビリテーション職能三団体協議会 会長 (現在に至る)	公益社団法人高知県理学療法士協会の理事として、特に「地域包括ケアシステムに関する推進リーダー」養成のための研修を中心となって企画・運営するなど理学療法士の育成に尽力。勤務先では部長としてリハビリテーション部門を管理するとともに臨床実習指導者としても経験豊富であり、脳血管疾患や運動器疾患、訪問リハビリテーションなどの領域における専門性も高い。今後の理学療法の実務に求められる現場の知識や技術、職業人や社会人としての態度、保健医療福祉の動向に関する知見に優れており、本学が目標とする人材育成のために、理学療法学専攻における教育課程の編成や授業内容の見直しなどにおいて適切な意見をいただける人物である。
6	職業	作業療法学専攻	杉本 徹	43	一般社団法人 高知県作業療法士会 地域包括推進部 地域ケア班長	平成10年 4月 (医) 恕泉会 内田脳神経外科 入職 平成19年12月 同 リハビリテーション病院すこやかかな社 平成23年 5月 同 リハビリテーション科長 (現在に至る) 平成29年 4月 (一社)高知県作業療法士会 地域包括推進部 地域ケア班長 (現在に至る) 平成29年 4月 平成30年度 高知市地域ケア会議 助言者 (現在に至る)	一般社団法人高知県作業療法士会の地域包括推進部地域ケア班長として活動されている。また、勤務先では、科長としてリハビリテーション部門の管理を行っている。作業療法士として臨床経験豊富であり、臨床実習の指導においても卓越した人物である。脳血管疾患などを中心とした実践的な作業療法の知識や技術のみならず、職業人としての態度などについて学ぶべき知見を有している。今後、地域包括ケアの推進など社会保障制度の変化に対応した作業療法学専攻の専門科目の授業科目や臨床実習の内容や方法の改善などで意見をいただくのに適任の人物である。
7	職業	言語聴覚学専攻	矢野 和美	51	高知県言語聴覚士会 理事	平成 4年 4月 (医) 近森会 近森リハビリテーション病院 入職 平成12年 5月 同 言語療法科 科長 (現在に至る) 平成19年 5月 高知県言語聴覚士会理事 副会長 平成23年 5月 高知県言語聴覚士会理事 事務局長 (現在に至る) 平成23年 4月 高知県口のリハビリテーション研究会 世話人 (現在に至る)	高知県言語聴覚士会の理事として言語聴覚士のリーダー的役割を担っている。臨床実習の指導者として経験豊富である。言語聴覚療法、特に摂食嚥下障害に対するアプローチに関する知見を多く有している。勤務する病院は日本のリハビリテーション医療において先進的な取り組みを行っている病院であり、言語聴覚学専攻が目標とする人材養成のための新たな授業科目の開発、授業内容や方法等の改善、臨床実習の内容や指導方法の改善などにおいて実践的な意見がいただける人物である。
8	その他	理学療法学専攻 作業療法学専攻 言語聴覚学専攻	中内 一臣	62	土佐市教育長	昭和54年 4月 土佐市役所入庁 平成19年 1月 税務課 課長 平成21年 4月 同 産業経済課 課長 平成25年 8月 同 総務課 課長 平成29年 7月 土佐市教育長 (現在に至る)	土佐市教育長として自治体の教育行政に関し識見を有する者であり、特に地域の幼児教育から中等教育とのかかわりを充分反映させる立場から本学の3専攻における入学前教育や入学後の基礎教育について適切な意見がいただける人物である。
9	協力	理学療法学専攻 作業療法学専攻 言語聴覚学専攻	近藤 真一	67	(医) 防治会 きんろう病院 院長	昭和56年10月 (医) 防治会 四国勤労病院 入職 平成13年 7月 同 勤労クリニック 所長 平成27年 5月 同 きんろう病院 院長 (現在に至る)	日本産業衛生学会委員をはじめ日本衛生学会会員、日本農村医学会会員など幅広く活動されている。特に産業衛生に関する学術研究と勤労者の職業起因性疾患の予防及び健康維持増進、人間・環境・健康の学術研究、地域包括医療にかかる保健・医療・介護を包含した広い分野に渡る知識と経験を有する。老年内科、リハビリテーション科等を有する病院の院長であり、公衆衛生学や老年医学を専門としている医師でもあり、その専門性を生かし、地域医療に貢献している。また、通所リハビリテーションセンターや地域高齢者支援センター等の事業所も運営しており、臨床実習の受け入れ先でもあり本学との関わりも深い。老年期のリハビリテーションや地域医療に造詣が深く、保健医療福祉の現場における専門職として重要な心構えや知識・技術について学ぶべきことに通じている。3専攻における当該職業の動向に即した臨床実習を中心とした教育課程の編成について病院・施設経営の観点からも意見をいただける人物である。
10	地域	理学療法学専攻 作業療法学専攻 言語聴覚学専攻	岡本 久	57	土佐市長寿政策課 課長	昭和56年 4月 土佐市役所入庁 平成26年 4月 同 市民課 課長 平成29年 4月 同 長寿政策課 課長 (現在に至る)	土佐市長寿政策課課長であり、介護保険事業、地域密着型サービス、地域包括ケアシステムの構築、地域支援事業、地域包括支援センター、介護予防、高齢者福祉、在宅福祉サービスなどを管轄している。3専攻と大きな関りがある領域であり、本学の設置の趣旨でもある地域貢献できる高度で実践的な職業人の育成を目指す教育課程を編成するためには、地域の保健医療福祉分野のニーズや産業振興などに関する知見を有している構成員らの意見や知見が必要である。
11	地域	理学療法学専攻 作業療法学専攻 言語聴覚学専攻	森本 悦郎	60	土佐市健康づくり課 課長	昭和57年 4月 土佐市役所入庁 平成22年 4月 同 戸波総合市民センター 所長 平成28年 4月 同 健康づくり課 課長 (現在に至る)	土佐市健康づくり課課長で、健康増進や健康診査、栄養改善、精神保健、食育推進、災害医療救護計画などを管轄している。3専攻と大きな関りがある領域であり、本学の設置の趣旨でもある地域貢献できる高度で実践的な職業人の育成を目指す教育課程を編成するためには、地域の保健医療福祉分野のニーズや産業振興などに関する知見を有している構成員らの意見や知見が必要である。